

知求会ニュース

2022年09月

第83号

◎ 他大学院 博士号取得、おめでとうございます！

森下 順子 (*MORISHITA Junko*) (国際文化研究専攻・13期生)さんが、2022 (令和3) 年3月23日(水曜日)に自治医科大学大学院 医学研究科 博士課程 地域医療学系専攻 精神・神経・筋骨格疾患学専攻分野 精神医学専攻科で、以下のように学位を取得されました。

学位名：博士 (医学)

学位番号：甲第 665 号

学位授与機関：自治医科大学

学位授与日：2022年3月23日

論文名：わが国のDV(ドメスティック・バイオレンス)被害者の現状と課題
—男性被害者の検討—

これまでの国際学部・国際学研究科(修士課程および博士前期課程)出身者の学位取得者は、博士(国際文化)(東北大学)2名・博士(文学)(名古屋大学)/(筑波大学)/(東北大学)4名・博士(人文科学)(お茶の水女子大学)1名・博士(人文学)(パリ東大学)1名・博士(芸術学)(筑波大学)1名・博士(社会学)(一橋大学)1名・博士(農学)(東京農工大学連合大学院)2名・博士(国際学)(宇都宮大学)20名・博士(経済学)(名古屋市立大学)1名・博士(観光経営学)(慶熙大学校)1名・博士(人間・環境学)(京都大学)1名・博士(学術)(杏林大学)/(筑波大学)/(東京大学)/(一橋大学)4名・博士(国際開発学)(名古屋大学)1名・博士(国際関係・紛争・平和学)(キングス・カレッジ・ロンドン)1名の計41名です。

◎ 掲載記事紹介

1. 朝日新聞 (令和4年4月27日) 2面に、《ひと》コーナーで「学校と外国人家族をつなぐ「ウェブ連絡帳」を開発した」と題して、[若林秀樹](#) (国際学部特任准教授) 先生の記事が掲載されました。
2. 下野新聞 (令和4年5月3日) 1面に、《きょう憲法施行75年》コーナーで「9条改正反対50%」「本紙宇大生アンケート」および「慎重姿勢、賛成は32%」と題して、[清水奈名子](#) (国際学部准教授) 先生らの記事が掲載されました。
3. 下野新聞 (令和4年6月2日) 3面に、「原発自己被害を検証」と題して「避難者の苦悩 自分事にして」および「宇大、高橋教授ら共著出版」の内容で、[高橋若菜](#) (国際学部教授) 先生と[清水奈名子](#) (国際学部准教授) 先生らの記事が掲載されました。

4. 下野新聞（令和4年7月17日）22面に、「東京五輪とは何だったか」と題して「新著で問題点を指摘」の内容で、**中村祐司**（地域デザイン科学部教授）先生の記事が掲載されました。
5. 下野新聞（令和4年7月22日）9面に、「下野新聞 votematch Smatch 参院選 2487人利用」コーナーで「物価高への不安を反映」と題して、**中村祐司**（地域デザイン科学部教授）先生らの記事が掲載されました。

◎ 国際学部だより

1. 下野新聞（令和4年5月3日）3面に、「憲法75年 下 とちぎの暮らしから」コーナーで「露侵攻で揺れる学生」「戦争放棄と平和」および「体験者「抑止力になる」」の内容で、**武田逸輝**さん(国際学部4年)さんと**水沢麻紀**さん(国際学部4年)さんの記事が掲載されました。

研究室訪問 56 第9号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

博士録 58 第22号から国際学部、国際学研究科に関係する同窓生に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

「宇都宮大学で過ごしたかけがえのない時間」

増山 貴子

1. 博士論文の概要

社会的養育を必要としている子どもたちの場として家庭養育が最優先され、「脱施設化」が世界的潮流となっている。博士論文では、わが国の社会的養育について検討を加え、主たる養育の場である児童養護施設並びに乳児院の役割を明らかにすることを目的とした。テーマは、「脱施設化の中の施設ー施設養護の独自の役割を問うー」である。

第1章「脱施設化の世界的潮流と日本における社会的養護の変遷」では、まず、脱施設化の世界的潮流を概観するとともに、日本の里親等委託率が国際的に極めて低く、脱施設化が進んでいないことを提起した。次に、日本の社会的養護の歴史的変遷について、第二次大戦後から2017年に公表された「新しいビジョン」の形成までを整理した。そのうえで、「新しいビジョン」の制定過程と基本的性格並びに特徴を述べた。

第2章「先行研究の整理」では、日本の社会的養護の歴史的変遷、イタリア・イギリス・ドイツの脱施設化の傾向と現状、「新しいビジョン」に関する先行研究を整理した。

第3章「アジア4ヶ国の脱施設化」では、脱施設化についてあまり研究が進んでいないアジアの国々はどのような政策を施行しているのかという問題関心をベースに、フィリピン、カンボジア、スリランカ、ネパールの4ヶ国の傾向と現状について整理した。

第4章では、「新しいビジョン」を現場職員がどのように受止めたかを明らかにすることを目的に、児童養護施設並びに乳児院の職員を対象に実施した質問紙調査の結果をまとめた。調査の対象は、東京都および神奈川県を除く関東甲信越の栃木・茨城・千葉・埼玉・群馬・山梨・長野・新潟の8県の乳児院30施設、児童養護施設105施設の合計135施設とした。選択肢式回答については、単純集計し、記述式回答についてはテキストマイニング等を使用して分析した。

第5章では、「新しいビジョン」を具体的に推進するために都道府県で策定された「都道府県社会的養育推進計画」を施設の現場職員がどのように受止め、推進しているのか調査することを目的に、質問紙調査を実施し、その結果を整理し検討を加えた。本調査は、「新しいビジョン」と関連する「都道府県社会的養育推進計画」に関する調査だったため、調査の継続性と経過に伴う施設の変化などを分析する都合上、予備調査と同じ施設を調査対象とした。

第6章「3つの施設の事例検討」では、小規模化、地域分散化、高機能化および多機能化・機能転換について先駆的な施設運営をしていると思われた3施設を事例として、具体的な取り組みについて論じた。本論文の核となる6施設を訪問したが、その中でも特に積極的な取り組みをしていると思われた施設であった。

結論では、各章の内容と論点を簡潔にまとめ直した上で、「脱施設化の中の施設」の重要性と社会的役割について論じた。

2. 宇都宮大学で過ごしたかけがえのない時間

私は、博士前期2年、後期4年の計6年間を宇都宮大学で過ごした。フルタイムでの仕事と大学院生の両立は、傍から見ると大変そうに思われたが、私としては、「大学院生」というもう一人の自分がいるようでとても嬉しかった。職場では色々な縛りや拘束があり「自分」を押し殺さなくてはならないことも多い。しかし、大学にいるとき、研究をしているときは素の自分であることができた。私にとっては、大学院生の自分でいられることがとても心地よい時間であった。

国際学研究科では、老若男女、国籍も様々な沢山の仲間と出会うことができた。年を重ねる毎に交友関係も狭まりがちであるが、パッと花咲くように交友の輪が広がった。そのような仲間たちと、意見を交わしたり、発表の練習をしたり、時にはご飯を食べに行ったりした時間はとても楽しく、思い出深いものである。

特に、博士後期課程の後半は、同室の仲間に助けられた。仲間がいたからこそ、頑張れたように思う。いつも一緒にいるわけではない、それぞれ論文の内容は全く違う、進捗状況も様々ではあったが、「論文を仕上げる」という目標だけは皆一緒だった。研究に行き詰まった時、何も進まない、どのように進めたらよいのかもわからない、時間は過ぎるばかりで目の前は真っ暗で、先に進む兆しすら見えない、そんなときの仲間の存在はとても

心強かった。同じ気持ちを分かち合える仲間の励ましがあつたからこそ乗り越えることができたと心から感謝している。

予備審査後に修正した最終論文を提出した時には、とりとめもなく涙が溢れた。完成の喜び、というより「大学院生」が終わってしまう何とも云えない大きな大きな寂しさが湧き出てきた。独り研究室で泣いていたことを思い出す。ここでもう研究することはないのだ、終わってしまうのだ・・・という悲しみが全身から溢れ出た。それくらい、宇都宮大学で過ごした時間というのは、私の人生において、かけがえのない至福の時間だった。

まだこれから先の人生は長いと思うが、恐らくこの宇都宮大学で過ごした 6 年間は、私の人生において、かけがえのない時間であり、ここで出会った先生そして仲間は私の人生に大きな影響を与えてくれたと確信している。修了してから1カ月余りが過ぎた今、6年間も研究をさせていただいたことに感謝している。研究指導をしてくださった先生、研究室の仲間たち、家族、その他調査に協力してくださった方など全ての人に改めて心から感謝したい。

(国際学研究科 博士後期課程 国際学研究専攻 第12期修了生)

(2022年5月6日原稿受理)

知究人 37 第9号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。

海外だより 31 第27号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

海外留学今昔 32 第35号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者**および**海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

学生サロン 22 知求会ニュース第41号より現役学部生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

「Diversity of HANDS Jr.」

国際学部国際学科4年 下村 由紀那

私は、2021年から2022年前期までHANDS Jr.の代表を務めておりました、国際学部国際学科4年、下村由紀那と申します。「HANDS Jr.」と聞いてご存じの方もいればご存じ

でない方、「HANDS」と区別がついていない方がいらっしゃると思いますので、はじめに私たちの団体について紹介させていただきます。

「HANDS Jr.」とは、多様な学生が主体となって、HANDS プロジェクトに参加し、イベントの運営補助、外国人児童生徒への学習支援や栃木県内の子どもたちへの国際理解教育の実践、高校進学ガイダンス、周知活動、異文化交流などの活動を行っています。例えば、8月には宇都宮市で行われる、小学生を対象にした「子ども国際理解サマースクール」と称した国際理解教育イベント・異文化交流会、真岡市で行われる、ペルーにルーツを持った子どもたちが多く参加する「AMAUTA」での学習支援ボランティア。9月には宇都宮市で行われる、外国人生徒やその保護者、学校関係者を対象にした「多言語による高校進学ガイダンス」、小山市で行われる、外国人児童生徒を対象にした「かけはし」での学習支援ボランティア。12月には真岡市で行われる「イヤーエンドパーティ」に参加し、HANDS Jr.の周知活動を行って参りました。

一方、「HANDS」とは、宇都宮大学多文化公共圏センターが行っている「外国人児童生徒教育支援事業」のことを指します。具体的には、田巻松雄先生率いる、宇都宮大学の国際学部から教育学部(現：共同教育学部)の教員、栃木県内の小学校から高校までの現役の教員、日本語教師らが中心に、栃木県内における外国人児童生徒の現状・課題の研究に取り組まれ、外国人児童生徒の高校進学支援や学習支援、国際理解活動などに尽力されてきました。

ここで私が一つ、強調したいことがあります。それは、「HANDS Jr.には、多様な学生が所属している」ことです。ここでの「多様」とは、「さまざまなバックグラウンドを持っている」ことを意味します。外国にルーツを持った学生、外国人児童生徒だった学生、高校まで外国人児童生徒に一度も会ったことのない学生など。このように、私たちは個々人の多様さを尊重しながら、子どもたちに学習支援や国際理解教育の実践などを行っています。このことは、非常に魅力的であると感じております。

新型コロナウイルスの流行から2年が経ち、影響が少なくなってきた今、少しずつイベントの開催や学習支援ボランティアの募集が再開し始めています。栃木県には支援を必要とする外国人児童生徒、その保護者、学校関係者が多くいます。私たちは今後も、彼らの力になれるよう励んで参ります。ぜひ、応援をお願いします。

(国際学部 国際学科 第3期生<国際学部第25期生>)

(2022年8月13日原稿受理)

キャリア指南15 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム 2022年の長月を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦労して
います。) 今回は執筆者の都合により、掲載を延期します。

東南アジア支部だより

第63号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん(国際学部社会学科第1期生・国際学研究科国際社会研究専攻第1期生)が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019年4月から、年4回から年2回発行(4月1日、9月1日)の変更になりました。

今回の第14号の内容は、1. ご挨拶 2. お知らせ 3. 活動報告 4. 支部創立5周年記念企画 ♡私を動かした東南アジアとの出会い♡ 5. 連載コーナー トコロ変わればザ★談会(第7回) あなたの地域の“物価上昇”事情 6. 連載コーナー ～タイの昨今～(第14回) ～タイ人はパレードが好き～ 7. 連載コーナー 狙えインスタ映え!? アジア取材雑記第10回 膨張する“アジア最大のゴミ山”で 8. 連載コーナー ～懐かしの一枚～ とともに感じる東南アジア(第10回) です。

EU支部だより

第38号からイタリア在住の**松原真実子**さんによる知求会EU支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の43号の内容は、1. イタリア 急性青酸中毒で牛50頭死ぬ、干ばつで飼料に有害物質濃縮 2. イタリア 観光客に水くみ場の利用呼び掛け プラ削減の取り組み 3. EU支部だより 一ついに・・・です。

編集者のひとりごと

●8月15日締め切りの「古文書読解検定2級」は無事に解答を提出して、9月中旬の判定待ちです。話は変わりますが、サンキュータツオ著『学校では教えてくれない! 国語辞典の遊び方』という本に刺激を受けて、新しい国語辞典を2冊購入しました。この本では11冊の国語辞典を比較したもので、大いに参考になりました。購入は栃木県立図書館に常備していないものを選択しました。ひとつは『角川必携国語辞典』、もうひとつは『てにをは連想表現辞典』三省堂です。サンキュータツオによれば、『角川必携国語辞典』は「詩的に、丁寧に教えてくれる良家の子」という触れ込みです。また、「使い勝手のいい一冊」とも。

編集後記: 2010年4月26日から **知求会ニュースのバックナンバー**は **国際学部同窓会 HP** (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっていきます。

同窓会会員の皆様へのお願い: **住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。** chikyukai@freeml.com